

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記2

国立市立国立第七小学校

平成26年7月2日 NO.30 (130)



マジックテープのとげとげ

オナモミのとげとげ

オー君 「あ！なんだ。上のゴミみたいなやつ？」

花ちゃん 「マジックテープ…それから、オナモミのとげとげ…と…書(か)いてあるわ。」

オー君 「あ！思い出(おもいだ)したよ。このまえのお話(はなし)のつづきだ。」

モンタ博士「そのとおりだ。マジックテープというのは、今ではいろいろな物(もの)に使(つか)われているけど、このオナモミの実(み)のとげとげがヒントになったんだよ。」

花ちゃん 「ほんとうなんですか。」

モンタ博士「モンタ博士！うそつかない！発明(はつめい)したのは、スイスの発明家(はつめいか)で、名前をマエストラルさんという人なんだ。」

オー君 「へえー。マエストラルさんっていうんですか。えらい人ですね。」

モンタ博士「オナモミの実で遊(あそ)ぶのもいいけど、なぜ、どうしてオナモミにはとげとげがあるのかを考えることにしようよ。」

オー君 「それじゃ、今からオナモミの秘密(ひみつ)をさぐろう。」

モンタ博士「ところで、花ちゃんは植物が好(す)きで、オー君は動物(どうぶつ)、とくに虫が好きだよ。モンタ博士は、植物も昆虫も星も鳥も好きだけど、オー君に質問(しつもん)するね。」

オー君 「何でも聞（き）いてちょうだい。おいら虫博士だもんね。」

モンタ博士「どうして、オー君は虫が好きなの。」

オー君 「そんなの決まってるよ。動（うご）くのがおもしろいんだ。カマキリでもクワガタでも、動いているのを見ているだけでおいらは楽（たの）しくなるんだ。」



モンタ博士「そうか。動くからおもしろいのか。なるほど。」

花ちゃん 「そうね。植物の花は、きれいだけど、動くことはしないわね。」

モンタ博士「ふーん。そうか。植物は動かないか…ほんとうかな？」

オー君 「え！それってどういう意味（いみ）ですか。」

モンタ博士「よく考えてみようよ。ある地点（ちてん）をA地点として、ある地点をB地点とする。A地点からB地点に移動（いどう）することを《動く》というんだよね。」

オー君 「なんだかむずかしくなってきた感じだけど、動物はA地点からB地点に動いたりするんだ。だから動く物、それで、動物（どうぶつ）さ。」

花ちゃん 「植物は動かない・・・でも、植物は運（はこ）ばれることはあるわ。足はないけど、何かによって動いたりすることはあるわ。」

モンタ博士「ここで大切なことは、動物も植物も子孫（しそん）を残（のこ）すためにいろいろと苦労（くろう）しているということも考えてほしいね。」

オー君 「それって、どういうことですか。」

モンタ博士「つまりね。植物の根（ね）や茎（くき）や葉（は）はてくてくは動かないけど、実はどうだろう。種はどうだろう。オナモミはとげとげで何かについて運ばれるね。つまり、オナモミは動く。つまり種はたびをするのさ。」

オー君 「あ！そうか。くっついて運ばれるだけじゃなくて、飛ばされるものもある。」

種子散布タイプいろいろ

植物は様々な方法で種子や果実を散布している。付着型のもは毛やとげ、あるいは逆針を持っていたり粘液を分泌したりして動物の体に付着して運ばれる。風散布型のもは、果実や種子に翼や羽毛を持ち、風に飛ばされやすくなっている。被食型のもは、目立つ色の果実をつけ、それが鳥などに食べられることによって種子を散布する。重力散布型のもは、球形で重い果実や種子をつくり、落下した時に地面に転がりやすい。水散布型のもは、果実や種子が水に流されて散布し、海水に運ばれるものもある。自力散布型のもは、果実にいろいろな物理的仕組みがあって機械的に自力で種子を散布する。